

活動レポート

倫理委員会

文責：倫理委員会幹事長 佐々木裕之

平成 30 年度第 2 回、第 3 回研究 WG 活動報告他

はじめに

倫理委員会では、平成 30 年 6 月 11 日(月)に平成 30 年度第 2 回研究 WG(出席者 18 名)を(株)ドーコン会議室、平成 30 年 8 月 6 日(月)に第 3 回研究 WG(出席者 17 名)を和光技研(株)会議室で開催したので報告いたします。

1. 平成 30 年度第 2 回研究 WG

(1)第 9 回技術者倫理フォーラムについて

基調講演として、北海道大学の藏田教授に「ロボット倫理と技術者倫理」と題して講演を依頼しています。また、事例研究報告として山本幹事と長谷川幹事が「技術者と個人を幸せにするための志向倫理」～well-being を 1 年間考えて～ と題した発表を行います。なお、本橋委員が共同授業報告として「旭川高専での技術者倫理共同授業(4 年目)について」と題した発表を行うこととなっています。



H30 年度 第 2 回研究 WG の様子

(2)第 9 回技術者倫理フォーラム：事例研究報告「技術者と個人を幸せにするための志向倫理」(山本幹事・長谷川幹事)

第 9 回技術者倫理フォーラムでの発表内容について、山本幹事と長谷川幹事から各委員に向けて前回からの変更点について説明を行いました。内容・構成は、1. どうして志向倫理なのか、2. 技術者倫

理の必要性、3. 志向倫理の位置付け、4. 技術者が目指す福利、5. 事例研究、6. まとめ となっております。

各委員からの主な意見は下記のとおりでした。

- ・予防倫理と志向倫理は対比して考えるものなのだろうか。両方必要なものではないだろうか。
- ・予防倫理と志向倫理の 2 つがあり、どのような使い分けをすれば良いかを考えるべきではないか。
- ・長時間労働が Well-Being に悪い影響だけを与えるわけではなく、良い面も悪い面もあると思う。



山本幹事、長谷川幹事による説明

2. 平成 30 年度第 3 回研究 WG

(1)H30 年度旭川高専技術者倫理共同授業について

昨年度に引き続き今年度も 12 月から 1 月の間で、3 回にわたって旭川高専で技術者倫理の共同授業を実施いたします。授業時間は約 3 時間で、講義・事例説明に約 40 分、今年度は 5 班に分かれて実施するグループディスカッションに約 1 時間 20 分、発表時間・質疑応答に約 1 時間程度を予定しています。講義テーマ、授業の進め方は各班で事前に打合せ等を行った後に授業へと臨みます。なお、今年度も、昨年度に引き続き長谷川幹事、山本幹事、佐々木幹事長の 3 名が中心となり、各回の授業のリーダーとして共同授業を実施する予定となっています。

(2)事例研究 1「技術者の倫理入門：第 1 章～ 4 章」 (山本幹事・當麻委員・市川委員)

山本幹事・當麻委員・市川委員より、「技術者の倫理入門：第 1 章～ 4 章(コミュニティー形成の重要性とその在り方)」と題した報告がありました。構成としては、1. モラルへのとびら、2. 社会に期待される技術者の役割、3. 積極的倫理、4. 事例研究その 1 ～福島原発事故～、5. 事例研究その 2 ～倫理問題の原因分析～ とする予定ですが、今回は構成や事例の方向性を確認するための内容となっていました。

1. 「モラルへのとびら」では、モラル価値基準の変遷、モラル上の不一致時の問題を解決するアルゴリズムはないことや倫理問題ではディベートではなく対話が重要であり、コミュニティーの人間関係において共通の理解を見出すことが重要との解説がありました。2. 「社会に期待される技術者の役割」では、1) 科学技術の危害を抑止、2) 公衆を災害から救う、3) 公衆の福利を推進する の 3 つが技術者の役割であり、職務上の義務と併せてモラル意識は積極的倫理の枠組みの中に存在するとの説明がありました。3. 「積極的倫理」では、積極的倫理の枠組み・行動イメージやコミュニティーの連帯についての説明があり、倫理的な組織風土構築のためにはコミュニケーションを十分とることが重要で、技術者個々の意思や考え方を保持しつつ、柔軟な思考に基づいた議論が必要であるとの解説がありました。

(3)ミニ講演「事故を防止するために考えていること」(小川委員)

小川委員の自己紹介を兼ねたこれまでの経歴と事故を防止するために倫理委員会に入会した経緯、なぜ事故を防止するのか、事故を防止するためにどのようにマネジメントするのかといったことに関する話題提供がありました。小川委員が倫理委員会へ入会した理由として、意図的行動によるエラー(外圧型意図的行動や手抜き型意図的行動等)は技術者倫理で防ぐことができないだろうかと考え始めたことが挙げられていました。技術者の使命として公衆の安全を守ることが最重要事項であるにも関わらず、意図的行動によるヒューマンエラーが依然として発

生するような状況であることや行政も事故を防止するための取り組み・事故の捉え方がより良い方向へ変わりつつある点についての説明がありました。事故を防止するためには“安全のしくみの本質”を掴む必要があり「ルール・しくみ」は時間の経過とともに風化し、目的やその経緯が薄れることから PDCA サイクルを回し続けることが重要とのことでした。

3. 平成 30 年度第 2 回志向倫理 WG

倫理委員会では 4 月より志向倫理 WG を新たに立ちあげて活動を開始しています。第 2 回志向倫理 WG を平成 30 年 7 月 20 日(金)に開催いたしました。



H30 年度 第 2 回志向倫理 WG の様子

小川委員から「安全への動機付け」、永井委員から「志向倫理とワーク in ライフ」と題した話題提供がありました。「安全への動機付け」ではマズローの欲求 5 段階説をモデルとして「やる気スイッチチェックシート」による現状分析を行い、仕事への意欲との CS 分析を実施した結果の概要について説明がありました。「志向倫理とワーク in ライフ」では、技術士の新たな資質として、よりよく働くための環境づくりを位置づけたい！との思いから「志向倫理」に基づく考え方や行動指針を整理する等し、若い世代が技術士として、いきいきと働く環境づくりに貢献していくことについて意見交換を行いました。

おわりに

倫理委員会では会員を募集しております。倫理委員会のメンバーとの意見交換や交流を通じて、技術者倫理についてさらに深く考えてみませんか？ また、若い委員が中心となり、少人数で志向倫理 WG を新たに立ち上げて活動を行っております。詳しくは当委員会 HP をご確認ください。